

(1) 研究主題：「個々のニーズに応じた学校教育相談のあり方」

子どもを取り巻く教育環境は、刻々と移り変わり、その環境の変化に学校教育も家庭教育も子ども自身さえもとまどいを感じている状況が生じている。

学校において、児童生徒の「個々のニーズ」とは、(1) 学習の課題 (2) 行動性格の課題 (3) コミュニケーションの課題 の3つに大別することができる。子どもが成長を遂げていくには、どんな子でもそれらの課題に自分なりに挑戦し、克服していくことが必要だが、たった一人で解決できるわけではない。仲間と家庭、学校、地域の力が集まってこそその成長である。その意味で、学校教育相談の対象者とは、教師からみて問題のある子ばかりではなく、全ての児童生徒である。課題や問題のない子は、大人と同じように存在しない。問題を抱えていると思える子には、自ら支援を求め、解決ができるような力をつけさせたい。そして、さらに自己実現ができるような力をつけさせていきたい。そのために、様々な教育相談の理論や技法を生かし、実践していこうというのが本テーマの主旨である。

「個々のニーズ」を把握するためには、子ども一人一人との信頼関係が必要である。その意味では、このテーマは我々教師にとって重い課題となるだろう。学校教育相談が、単に心理療法やテクニックだけに陥らないためにも、常に原点に戻り、

「今、その子に何ができるのか」を問い続ける部会でありたいと考え、本研究主題を設定した。

(2) 今年度の研修内容

「コロナ禍において、子どもたちに今、そしてこれからできること」

講師 東京情報大学 准教授 原田理恵子先生

(3) 講演内容の概要

1 日本型学校教育が直面する課題（中央教育審議会，2021）

○新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立

コロナ禍以前の学校生活に満足度が高い児童生徒は、現在の感染拡大による登校等の不安（密が不安、感染しないかという懸念等）、学校行事・活動の制限、先行き不透明な状況（受験や進路を含む）における心配等による高い傾向にあるため、心のケアが重要である。

→例) ・SCによる心のケア

・学級・学年におけるレジリエンス教育（日本赤十字社，2021a，2021b）

○今後起こり得る新たな感染症の備えとしての教室環境（文部科学省，2121）や指導体制等の整備，チームとしての学校の取組

→例) ・教員・SCなどの学校内外の人との協力体制

・理論に基づいた支援

2 2020年代を通じて実現すべき姿

① 個別最適な学び

新学習指導要領では「個に応じた指導」を一層重視している。

【求められていること】

- ◎これまで以上に子供の成長のつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味関心意欲等を踏まえてきめ細かく指導支援する。
- ◎子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるように促していく。

② 協働的な学び

「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないように子供同士であるいは多様な他者と協働しながら「協働的な学び」を充実させる。「協働的な学び」は、コミュニケーション能力を身に付け、規律的で多様性を認め合う環境ができていて、効果的な教育・学びができるとされている。

【求められていること】

- ◎新たな ICT 環境や最先端技術の活用等に寄る学習の基盤となる資質・能力の確実な育成をする。
- ◎児童生徒一人一人の興味関心等に応じ意欲を高めやりたいことを深められる学びの提供をする。
 - ・アセスメントの重視及び PDCA サイクルに基づき評価を生かしたよりよい教育を目指す。
 - ・評価をどのように児童生徒にフィードバックするかが重要である。そして、パフォーマンスよりもコンピテンシーに目を向けた働きかけの重視が指摘されている。

3 今後の方向性

- 学校に十分な人事配置を実現し、1人一台端末や最先端技術を活用しつつ、多様化する子供たちに対応して個別最適な学びを実現しながら、学校の多様性と包摂性を高める。
- 情報モラル、情報リテラシーの教育も重要になり、学校だけでなく家庭の教育も重要になるため、保護者への教育も求められている。
- 全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するには、ICTは不可欠である。

ICTを活用した学びのあり方

対面指導の重要性、遠隔・オンライン教育等の実践による成果や課題を踏まえ、発達段階に応じ、ICTを活用しつつ、教師が対面指導と家庭や地域社会と連携した遠隔・オンライン教育とを使いこなす（ハイブリッド

化) ことで「個別最適な学び」と「協働的な学び」を展開していく。

令和3年2学期から、さいたま市等で、ハイブリッド型授業(図1)が導入され、子どもと保護者が授業を選択できる動きが始まった。

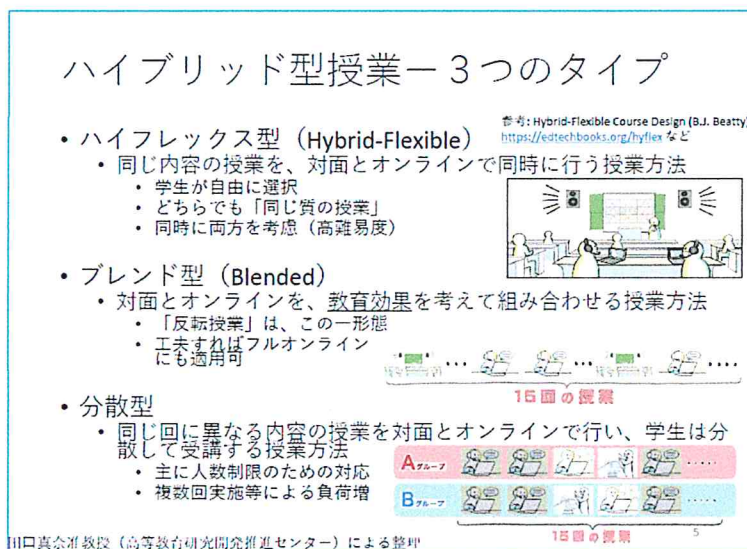


図1 3つのタイプのハイブリッド型授業

○学校で学びたくても学べない児童生徒 (病気療養、不登校等) への遠隔・オンライン教育の活用を進め、自宅等での ICT 活用等多様な教育機会の確保に取り組む。

○高等学校においても、今後は生徒の多様な能力・適正、興味・関心に応じた学びを実現することが必要である。定時制・通信制課程においても多様な学習ニーズへの対応と質保証をしていく。STEAM 教育等の教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成をしていく。

引用文献・参考文献

中央教育審議会(2021). 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～

https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_1-4.pdf

文部科学省(2121). 学校における新しい新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル「学校の新しい生活様式」

https://www.mext.go.jp/content/20201203-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf

日本赤十字社(2020a). 「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」を活用した授業案

<http://tomokoba.mt-100.com/wp-content/uploads/2014/05/.pdf>

日本赤十字社(2020b). 「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」

<http://tomokoba.mt-100.com/wp-content/uploads/2014/05/.pdf>